

道有林基本計画（素案）に対する主な意見及び修正箇所

章区分	対照表ページ	意見者	素案に対する意見要旨	回答・修正内容
はじめに	P2	パブコメ (関係団体)	ICTを活用して資源把握を積極的に進め、公益的機能の発揮に配慮した森林づくりにより、広葉樹材の供給を進めるべき。	<p>【案で修正】 天然林資源の現況について追記するとともに、公益的機能の発揮に配慮した森林づくりを進める趣旨となるよう修正しました。</p> <p>■修正後の案 「また、人工林においては、これまで伐採の主体となってきた30年から60年生の資源の減少が見込まれることから、積極的な主伐・再造林に加え、林内に侵入した広葉樹の育成による針広混交林化を、天然林においては、20年ほど前から伐採が減少し、資源が回復しつつあることから、下層木の育成を目的とした抜き伐りによる活力ある森林への誘導などを進め、将来にわたる公益的機能の高度発揮や地域の木材需要を踏まえた原木の安定供給に向けて、北海道らしい森林づくりに取り組んでいきます。」</p>
第2 2 (2)	P6	パブコメ (関係団体)	森林の持つ公益的機能の発揮を図る森林づくりを進めるべき。	<p>【案で修正】 ご指摘の趣旨を踏まえて、森林の持つ二酸化炭素を吸収・固定する機能、山崩れ洪水などの災害を防止する機能、水を貯え・浄化する機能などを発揮させることが求められている旨の記載を下記のとおり追加しました。</p> <p>■修正後の案 「道有林のトドマツ、カラマツなどの人工林においては、水を貯え・浄化する機能、土砂流出や山崩れを防止する機能などの公益的機能の発揮を図るため、計画的に主伐・再造林や間伐などの整備を進めてきました。人工林の約6割は利用期を迎えており、主伐の対象となる高齢林が増加し、間伐の対象となる成長が旺盛な若齢林の減少が見込まれます。」</p>
第2 4 (1) ウ 第3 1 (3)	P12 P19	パブコメ (関係団体)	天然林の抜き伐りによる天然力を活用した森林づくりについては、拙速に行うことなく、時間をかけて取り組むべき。	<p>【案で修正】 当面の取組について、北海道らしい森林づくりを確立するとしていたところですが、ご指摘の趣旨を踏まえて、下記のとおり修正しました。</p> <p>■修正後の案 ・第2 4 (1) 「森林の現況に応じて人工林の針広混交林化、活力ある天然林の育成を行い北海道らしい多様で健全な森林づくりを推進します。」 ・第3 1 (3) 「ICTを活用して資源を把握し、持続的に施業が実施可能と判断された森林において、試行的な伐採を繰り返すことによって、資源把握の精度の向上や天然林伐採の技術の継承を図ります。」</p>
第3 1	P17	パブコメ (関係団体)	森林づくりの項目に、「地域の木材需要を踏まえて、原木を供給する」とあるが、天然林において本格的な伐採に着手するかのような誤解を与えるので、表現を改めるべき。	<p>【案で修正】 天然林の伐採にあたっては、ICTを活用した森林資源量を把握する手法を確立した上で、天然木の活用を進めるとしていることから、ご指摘の表現を削除し、下記のとおり修正しました。</p> <p>■修正後の案 「針葉樹、広葉樹の大径木に恵まれるとともに、上層、中層、下層にバランスよく多種多様な樹木が配置された木材生産が可能な森林を育成します。」</p>